

「ジャパン・フェスティバル・イン・ベトナム 2014」にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。実行委員長の武部勤です。

日本とベトナムとの交流の歴史は古く、766年には、日本から派遣された阿倍仲麻呂が現在のハノイ近郊に在任し、1600年初頭には、江戸幕府を開いた徳川家康が中部のグエン氏と書簡を交換しています。1620年ごろに日本にお嫁入りした、ベトナムからの花嫁を歓迎するお祭りが、今でも「長崎くんち祭り」に伝承されています。1905年にはファン・ボイ・チャウが来日、東遊運動が起きました。

地政学的にも、民族的にも、最も親しみを感じずるベトナムとは、昨年、日越外交関係樹立40周年を迎えました。この3月には、安倍首相とチュオン・タン・サン国家主席の日越両国首脳の間で、「アジアにおける平和と繁栄のための広範な戦略的パートナーシップ」へと、より高い水準に、日越関係を発展させていこうという合意がなされました。

私たちはその思いを、官民を問わず幅広い交流を通じて実現するため、日越の交流の懸け橋となるべく、節目の年2013年に、第1回のジャパンフェスティバルを開催いたしました。

第2回目の今年は、発展する両国関係を象徴するように、実行委員会もさらに充実させました。実行委員には日本を代表する経済団体、日本経済団体連合会、日本商工会議所、ベトナム協会からの参加もいただきました。そして、目下、日越両国の国会開会中のためご参加いただくわけにはまいりませんでしたが、日越両国の国会議員による友好議員連盟のご後援をいただきました。さらに両国の外務省、大使館、総領事館をはじめ、ホーチミン市人民委員会、商工会議所、JETRO、商工会、越日友好協会、各国友好協会連合ほか、多くの皆様のご協力も頂きました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

このフェスティバルでは、日本とベトナムの文化・芸能・芸術を通じた交流だけでなく、民間企業による日本のモノづくりの紹介や、地方自治体・観光関係機関による訪日交流会、日越教育交流など、昨年のプログラム以上のものを準備しました。70を超える団体が日本からやってまいりました。日本の良さと魅力を幅広く紹介致しますので、ぜひご覧ください。

また今回は、日本の食・和食がユネスコの無形文化遺産に登録され、また2020年にはオリンピック・パラリンピックの東京開催が決まりましたので、日本の農林水産省と連携して、日本食・食文化の魅力を伝える「日本食フェスティバル」も開催します。

さらには日本の毎日新聞社が、ベトナム最大手新聞社《トイチェ》と共催で、セミナーを

開催します。日本の農業・農産物を紹介すると共に、農業国ベトナムへの生産・加工における高度技術の移転や食品安全衛生、フードバリューチェーン構築へのアドバイスなど、具体的な事例に即して農業分野の交流・協力を進めます。

私自身、ベトナムの首脳の方々とお会いすると、必ず農業分野での日越協力についてお話を頂きます。そこで、私の地元は農業先進県の北海道ですので、その発展の経緯を踏まえて、集落や村など地域が力を合わせて共同組織を作り、生産、加工、流通、商品化など、力を合わせて「村づくり」をし、就労の機会と所得を獲得するプランを提案しています。日本とベトナムはこの分野でも補完しあい協力し合うことで、共に発展する関係にあります。

また、今回のフェスティバルに合わせて、北海道から視察団を編成しました。農産物・水産物・林業振興の関係者、さらにはそれら事業に付帯する建設・運輸などの関係者 19 名で、ベトナムの現地・現状を視察し、日越の協りに結び付けようとしています。

日本とベトナムとの交流はこれにとどまるものではありません。このフェスティバルを継続し、日本の紹介だけではなく、ベトナム側からも音楽、伝統文化、若者や学生たちの交流を通じた日越相互理解の機会を提供し、日越両国の幅広い友好関係を築いてまいりたいと思います。

これら事業で得られる相互理解・文化交流、そして友好の絆は、日越友好の新たな原動力になると確信しています。そして、その輪を、アジアの国々へと広げてまいりたいと存じます。

回を重ね、年を経るごとに、「ジャパンフェスティバル・イン・ベトナム」を日越両国の歴史と伝統を誇る、大イベントに成長・発展させてまいりたいと存じます。

皆様のさらなるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。